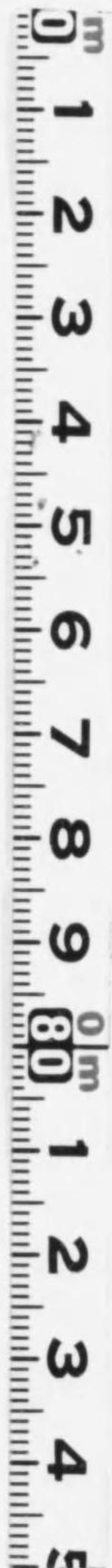


特253

126

職業に関する論文・作文

岐阜縣學務部職業課



始



特253
126

はしがりぎ

曩に職業指導強調週間の實施に當り本縣に於て市町村職業係職員、小學校教員に對し「戰時下に於ける職業指導の方法」と題し論文を、併せて小學校兒童の「職業」に關する作文を募集し、時局下小學校兒童に對する職業指導の要旨の普及徹底を圖り特に勤勞精神の昂揚と就勞氣風を振作し以て職業報國の實を擧ぐるに努めたり。

東亞共榮圈の確立、國防國家の建設に當り勞務資源擴充の要緊切なるの秋、優秀作品の部を騰寫し關係各方面に頒布し以て職業教育、指導の參考に資せんとす。



目次

一、論	文	本巢郡生津小學校長 高木精作……………一
二、論	文	大垣高等小學校訓導 稻葉實……………七
三、作	文	梅林小學校 高二堀江數子……………三
四、作	文	宮地小學校 高二安田志とゑ……………四
五、作	文	大垣高等小學校高二岸野登……………五

戰時下に於ける職業指導の方法

本巢郡生津小學校長

高木精作

- 一、緒言
- 二、教育の二大思潮
- 三、我が國に於ける教育の目標
- 四、職業觀の是正
 - 一 職業
 - 二 労働
 - 三 職業觀の是正
- 五、職業指導の内容
 - 一 心身の強化
 - 二 職業精神の強化鍊成
 - 三 職場見學
 - 四 職業指導科
 - 五 職業觀、労働觀の確立

- 六 離職の防止
- 六 父兄の認識是正
- 七 其の他の問題
- 一 個性調査
- 二 大陸開拓義勇軍
- 三 女子の問題
- 四 職業紹介所に對する希望
- 八 國民學校と職業指導
- 九 結言

一、緒言

所謂長期建設の長期とは容易に豫測を許さざる期間であり、その久しい期間に亘つて、日本は東洋の平和を確立し完遂しなければならぬのである。その爲には第一物資の確保、第二人的資源の増強を圖らなければならぬ。茲に第一の問題は別として、第二の問題は一つは人口の増殖であり、今一つは國民全體の素質の向上開發である。而して素質向上の問題は係つて教育の仕事にあり、しかも所謂職業指導の分野に負ふところ大なるを信するのである。しからば今後に於ける職業指導は、我が生々發展の國家の生命に對して、如何なる内容方法に於て存在すべきであるか。たとへ戦争は一時終熄したとしても東洋の平和を確立し得るまでは戦争の状態は繼續されるものとみて、今後に於ける職業指導即ち戦時下に於ける職業指導上特にかくありたいと思ふ諸點の内容方法について卑見を記述せんとするものである。

一、教育の二大思潮

西洋の教育は遠く希臘に淵源してゐる。即ちプラトンの眞、善、美といふやうな絶対價値を教育の目標としたところにある。この理想主義の教育はカントやナトルフを経てシュプランガーなどによつて主張された文化教育學に發展して來たのである。プラトンの眞、善、美は理想的概念であつて、何れの國家にも當放るところの普遍的なものであるが、文化教育學は、特別な社會の影響を受けて、眞、善、美の理念が具體的に現れたもの即ち獨目の歴史を持つ國土に生まれたるものを目標とするのである。故に國家本位の教育であることは明かである。しがるに一方ケルシェンシュタイナの國家を中心とする勞作教育が唱道せられ、或は郷土教育の思潮も現れて、こゝに民族的國家主義の教育思潮が發展して來たのである。かゝる運動を社會中心の運動—*Society Centered Movement*—と名付けるならば、かのパークやバークストやウオシユバーンの唱道した素質に應じて個人的に進展せしめんとする個別教育の運動—*Child Centered Movement*—と名付ける。

この二運動は補足的ではあるが全く別物である。兒童中心の運動は兒童自身の啓發に注意が集中せられ、各兒童の成長の各時期に何を必要とするかであり、社會中心の運動は、成年の社會に於ての要求に注意が集中せられ、社會は個人に何を要求するかである。勿論完全な個人の發達は、社會の發達と社會の必要に應ずる才能の啓發を含まねばならぬ。これが補足的なる所以である。しかし考究の方法と注意の集中は全く別物である。

兒童中心の運動は、自由、自己表現、創造活動といふ様な形で現れて居る。そして兒童を一つの成長する有機體として滋養物の種々なるタイプの必要を研究するのである。體育にしても健全なる身體の社會的價値は認めるけれども、社會的要求は指導者の注意の主なる中心ではない。彼は兒童自身を興味がらせる。そして兒童の遊びを助け、餘暇の仕事を啓發し、創造教育のうちに興味がらせるのである。

社會中心の運動は、如何にして兒童を社會の要求に適合さすべきかを研究する。職業教育は完全な見本である。如何にして幸福と發達の最上プランに到着し得るかを考へないで、第一に來るものは社會の要求は何であるかに注意が集中されるのである。アメリカの科學的調査の大部分は社會中心の運動のうちになされてゐる。元來兒童中心に於てすら智能テストは兒童は如何に多くの知識と熟練を吸収することが出来るかを見出す目的のために主としてなされてゐるのである。教授の方法、課程研究、統計方法なども社會的要求に如何にして適合すべきかといふことに注意が集中されてゐるのである。茲に兒童中心運動の人々の研究部面が存するわけである。

この二運動は補足的のものであるといつたが、社會中心にしても、その目的を達成するためには、各時代の各個の兒童の興味と身體、感情の發達の上に注意が集中されなければならぬことは勿論である。

三、我が國に於ける教育の目標

日本の維新以後の教育史は西洋に發達した教育の種々相の壓縮である。西洋の教育はその時代その國家社會の狀勢に應じて發生したものであり、それを我が國に翻譯して、我が独自の國民の教育上に招來することは、過去に於ては止むを得なかつたとしても、今日の國家相に於ては最早清算されなければならぬ。新學校と稱して自由主義的な個人主義的な兒童中心の教育を實施してゐた小學校が今日殆どその影をひそめてしまつたことは當然の成行であらう。我々は勿論兒童中心の教育思想は大いに採容れはするが、根本に於ける目標は國家主義中心の教育である。即ち獨自の日本教育でなくてはならぬ。

國家は決して死んだ全體ではない。我が國家は歴史によつて統一せられたる二千六百年の生命を持ち、しかもその生命は生々發展の無限の生命である。生々發展の無限の生命を約束せられてゐる我が國家は偉大なる推進力を持つてゐる。この偉大なる推進力は國家といふ全體に與へられたる運命である。この運命の中に全國民は包容されて居り、國民といふ部分には生まれながらにして國家の推進力を形成してゐるのである。他の言葉を以て言ふならば國民は生まれながらにして歴史を持つてゐるのである。故に我が教育は歴史に目覺めさせることであり、生々發展の生命、意志のうちに自分の生命意志を一體にすることである。しかしてその國民としての活動は職業に於て初めて具體的に現れるのである。職業を通じてなければ具體的に現れる道はないのである。そこに職業指導の教育上の重大意義が存する。

四、職業觀の是正

一 職業 ところで職業とは何ぞやといふ問題になる。職業とは人が自家生活維持のために、その屬する經濟組織内にそれ／＼定つてゐる常業を選択して、繼續的に身を委ねることである。今日の如き營利經濟に於ては主として營利生産上の業を指す。―國民百科大辭典―職業とは最廣義に於ては一定の人が一定の種類の仕事に繼續的に従事すること、解せられる。これは必ずしも生活資料を獲ることを目的ではなく、通常は更に限定して生活資料を得ることを目的としてなされる。繼續的活動である―經濟學辭典―職業とは獨立の生計を營むことを目的として行はれる繼續的な専門的活動業務である―商業經濟辭典―

以上を要約すると職業とは生活上の賃銀を得ることであるとならう。私が「職業とは何ぞや」といふ問題を提出して兒童が「職業とは生活上の資料を得んとする繼續の仕事なり」と答案を書いたならば恐らく零點をつけるであらう。自由主義の國家はいざ知らず日本に於てはかゝる直譯的な解釋は通用しないのである。私は茲に、倫理的に

職業とは國民としての義務をつくさんが爲に繼續的に行ふ仕事であつて、その労働は生活資料を生むものである。と解釋したい。

二 労働 労働を所謂肉體労働として解釋するならば、小學校卒業兒童はその殆どがこれに従事するものであるから、茲に労働の意義を闡明にする必要がある。經濟學上に於ける労働の意義は「面倒を伴ふ努力」―ヘルン氏。「將來の利益

を目富として(全部又は一部)の忍ぶ所の苦しい心身の力作—ジエヴォンム氏—福田徳三氏國民經濟講話には「労働とは賃銀を得る爲に苦痛を忍ぶことである」と記してゐる。又一本には人々が財貨を生産するにあたり、使用する精神及び身體の活動をいふから生産の目的で働くものは凡て労働であるとする。これを要約してみると、労働は賃銀を目的とする苦痛の力作であるのである。併乍ら福田氏の書物には労働に伴ふ苦痛の特色として「ある力作が其の事自らの爲に管まれずして、他に存する目的を達する手段であるとき労働に伴ふ苦痛を生ずる。例へば賃銀を目的とする場合の如きであつて、學生の登山スキーなどには労働の苦痛は伴ない」とある。我々は「仕事になりきれ」と教へる。してみると、仕事になりきらんが爲にはその労働を自身より他に目的を考へないことが必要條件になつてくる。仕事になりきることとは最もよき職業人である。労働より他に目的を考へないことはよき職業人であり、賃銀はそれによつて自然増加していくのである。最もよき職業人は最もよき労働者であり一級職工なのである。即ち労働は最もよき職業人たらんとする條件である。

三 是正さるべき職業観 「一攫千金」「濡手で粟の掴み取り」何か樂をして金を儲ける意味で「うまい仕事はないか」といつたやうな職業観、労働観は今日斷乎として是正されなければならぬ。かゝる傳踏的な職業観が、現在職業指導を受けてゐる兒童の頭にも根強く植ゑつけられてゐるのである。而してかゝる職業観によつて選職したものは必ず失敗する時代となつてゐることを忘れてはならない。

五、職業指導の内容

職業指導は普通一九〇八年ボストンに設置された職業相談所を以て嚆矢と見做してゐるが、爾來この運動は社會事業と教育事業との二途に發展し、産業に於ける適材適所と相俟つて、國家に於ける人力經濟上の緊要施設である。この意味に於て學校に於ける職業指導は少年をして最も適する職業に就かしめ且つ職業生活をして正しきものたらしめる指導なのである。社會中心の教育運動に於ては職業指導は當然重要な位置を占める。殊に我が國に於ては前述の如く國家の生命意志

に一體となる具體的な現れが職業活動であるが故に職業指導は、教育全般の問題であるといつても宜しいのである。逆に教育全般は職業指導であるといつても宜しい。此の考は決して新しい考ではないが、教師の注意の集中點が、同じ意味ではあるが「よき日本人」にあるか「よき職業人」にあるかによつて大きな差を結果する。讀本の或る一課を教授するに際しても、單に國語として普通に取扱ふか、職業指導といふものを内に置いて取扱ふかは、結果に於て異なつた意味を生ずるのである。

教育はよき日本人をつくることに相違ない。しかし我々はもつとはつきりした目標即ち「よき職業人」を目標におかなければならない。此の考は今後一層強化さるべきものである。

一 心身の強化 小學校の卒業生は、殆どが労働を以て職業の資本とすべきものであるから、第一に來るべきものは心身の強化である。何はともかく心身の強化を以て職業人育成の根本としなければならぬ。十二月施行された軍工場の就職銜を見ても第一の條件は身體の強健である。かゝる銜に於て十二月—一月を経過したならば二月に残るものは、第四種作業者のみになつてしまはないとも限らない。しかも兒童をして時局産業に嚮はしめんとする政府の意圖に對して、我々は完全に添ふべきを得ないのである。折角軍工場に就職を希望するも身體虛弱のためその希望が達し得られないといふことは、單に本人のみならず、國家は人的資源の不足の上に向不足を訴ふることとなり双方の不幸は申すまでもない。身體の強健といふことは、單に身體の大小をいふのではなく、工場生活に堪へ得る身體は内臓の強健にあることに留意して、特に内臓検査の實を擧げなければならぬ。常に教師は作業態様が第三種、第四種に屬するものであらうと思はれる兒童に對して養護的注意を怠つてはならない。そのためには高等小學校に於ては早くから兒童を作業態様の種別に分けて、兒童の自覺を促すことが必要である。いよく就職の銜になつて初めてこの種別に分けられたことを知るの遅いのである。

二 職業精神の強化 精神の強化といふことを職業精神として見るならば、職業に必要な精神は第一持久力であ

る。これは如何にして涵養するか具體的に記す必要はない。が現在の我々の教育方法に於ては一事貫行の太い線が足りない。こゝに我々は行的修練の必要を痛感するのである。第二に必要なものは服従心である。單に口頭による命令にのみ服従するのではなく、各種の規則や指示による指示事項に對して服従する精神である。日本人は指示を讀まない、讀んでもあまり強く感じない癖を持つてゐる。學校教育に於ては指示による訓練を口頭による訓練以上に實施すべきであると思ふ。第三に必要なことは團體精神である。團體精神に於ける欠陥の最も具體的な現れの一つは「自分一人ぐらゐ出席しなくても」といふやうな個人的精神である。日本に於ては「何故團體に忠實でなければならぬか」といふやうなことを理解させ納得させるといふことはそんなに大切な問題ではない。さういふ自由主義的な考ではなく、團體に忠實なるべきは一つの義務である。國民としての當然の道であるといふことを幼少の中から叩き込んでおくべきではなからうか。

三 職場見學 職業の内容を理解させることは必要である。内容を知らずに就職するから離職の危険が多分があるのである。時局産業と一口に言つても我々教師に於てすら悉知しないのであるから、高等小學校に於ては一年、二年と二ヶ年間に少くとも一週間宛ぐらゐの見學旅行を行ふべきである。費用の問題は當然市町村費によつて補助されて然るべきであると思ふ。それは第二の國民に對して現在の大人が當然負ふべき義務であると思ふ。

四 職業指導科 職業指導科を特設することは必要である。しかしその教材については茲に一大反省を要求してゐるのではないと思ふ。一週一時間といふ貴重な時間を兒童が日常見聞してゐる呉服屋、八百屋、菓子屋、指物師といふやうな所謂平和産業的なものに費すといふことは最大の反省點である。元來職業に知識なき教師よりすれば、兒童よりは一日の長あるだけあつて、それ等の職業の教授は比較的容易ではある。故に曲りながらもどうか片はつく。しかし時局産業重工業の如きものになると、教師自身何等の知識見聞をも持たないが故に殆ど之を取扱はない状態である。只募集に際して待遇、出願方法などを募集ビラによつて讀んで聞かせる位に止まる。第一教師自身の研究團を組織して大いに各種工場の見學研究を要することは勿論であるが、かくして學年の最初に勞務動員計畫の趣旨、時局産業に屬する産業を取扱つて

兒童の關心を之に向はしめる必要がある。平和産業の如きは兒童自身の研究で足りる。勿論平和産業を輕んずるわけではないが、平和産業を取扱つて、時局産業を取扱はないといふ跛行的指導ならば、時局産業を取扱つて平和産業を取扱はない跛行的の方が宜しいのである。

今從來の職業指導讀本或は縣職業課の職業指導要綱案を見るに、第一職業から始まつて、職業の變遷、職業の種類、農業、水産業、鑛業、工業、商業、交通業、公務自由業……といつたやうに職業大分類の全般に亘つて最も普遍妥當な記述がなされてゐるのである。勿論之は兒童各の個性に従つての選職に便せん爲であり、又は他の職業を知ることによつて更によく自己の職業の地位を認識せんが爲でもあらうと思はれる。勿論小學校は職業人の基本的陶冶を重視するのであるから是等の方針に於て異論はない。しかし十月三十一日職第一〇七八號の小學校卒業者の職業指導に關する件の通牒を見ると

- 一 職業紹介所及小學校へ聯絡シテ勞務動員計畫ノ趣旨、勞務動員ヲ必要トスル時局産業及職業ノ種別並ニ其ノ作業態樣等ニ付兒童ニ徹底セシムル手段ヲ講ズルコト
- 二 小學校ハ卒業期ノ兒童ニ對シテ勞務動員實施計畫ノ趣旨並ニ時局産業ニ屬スル産業を周知セシメ且職業ニ關聯スル教科ノ教授ノ際其ノ他適當ナル時間ニ之ヲ教材トシテ指導ヲ加ヘ高等小學校卒業者ニシテ上級學校ニ進學セザル者ノ志向ヲシテ勞務動員ニ嚮ハシムル様努ムルコト
- 三 就職可能ナル兒童ニ對シテハ職業紹介所ト協力シテ成ルベク時局産業ニ屬スル就職可能職種ヲ選擇シ卒業ト同時ニ就職スル様積極的ニ指導スルコト

要するにこれは時局産業に就職を勧誘せよといふことである。我々は職業指導上にかうした重大な指示を受けてゐるのであるから、最初からかうした考を持つてゐなければならぬ。職業指導科に於て何の輕重も考慮せず、讀本の第一課から同じ調子を取扱つて行つて、扱而突如として時局産業への就職を勧誘してみたところで、例令兒童はその方へ希望を轉じ

ても児童の心構へといふものは職業科を特設してゐないのと大して違はないと思ふ。さうと知るならばもつと職業指導科で委しく教へてもらひたかつたと我々ならば愚痴を齎すべきことではあるまいか。故に高等小學校の職業指導科に於いては最初に最も力點をおくべき職業を提出し、それについては相當の深さに研究させておくことを必要とする。

私は数多くの職業指導教科書を見たが、仔細に検討すれば異論もあらうと思ふが川崎市の高等小學校の職業讀本は特色があると思つた。それは土地柄の然らしむところではあらうが、川崎邊の大工場各種をその内容について研究させることを主要な目的とし、次に平和産業的職業の少數を取扱つてゐるのである。かういふ個性的な獨自行き方は單に土地場所からばかりでなく、社會の變遷につれて(殊に明日の備たる職業指導には)力點の移動は當然である。

時局産業のうちには秘密工場も多いであらうから見學は許されないかも知れんが、大人のやうに隅から隅まで見學させなければ目的は達しられないのではない。相手は児童であることを思つたならば恐らく見學を許されない工場はないと思ふ。これは前の見學旅行のことではあるが、とにかく現在の職業指導科は第一教師の頭をつくることゝ。教材の編成替を急務とするのである。しかしてかゝる時局産業或は時局的職業指導教材は單に一般的なパンフレットでなしに學校教材として職業課の方で立案配布せられんことを希望する。

五 職業觀、労働觀の確立 これは申すまでもないことである。

六 離職防止 大塚好氏の「工場生活と少年の教育」といふ書物のうちに離職の原因として

- 1 二股かけて自分の希望の方へ走つてやめた
- 2 親に相談せず志願したためその反對でやめた
- 3 友達に雷同して志願したが友達はやめた爲又は落ちた爲にやめた
- 4 家庭の状況の變化
- 5 ホームシックでやめた

6 友達と同じ職種に配屬せしめられなかつたから

7 自分の希望する職種又は工場に配置されなかつたから

8 職業生活に認識がなかつた爲幻滅の悲哀を感じて

9 就業能力なきため

10 上長又は先輩同僚が氣にくはぬため

11 待遇に不平のため

12 解 雇

さいふ十二の原因を擧げてゐる。我々の調査には他にも原因はあるが病氣などによる離職は9の「就職能力なきため」にはいるであらう。又他の職業の方が収入が多いからとの離職轉職は11の「待遇に不平のため」の中に入れてよからう。そこでかうした離職の原因を検討してみると、①選職に對する見職が不足してゐるため ②職業の理解に欠けてゐたため ③職業精神が薄弱であつたための大體三つに歸すると考へられる。而して離職轉職の多い時期は就職後の二、三年即ち十七八歳頃で思想の動搖し易い時代である。或は稀には誤つた職業指導を受けたが爲に、自分には適職でないからと適職がどこかに自分を待つてゐるやうな考で離職轉職をなすものもある。要するに以上のやうな離職原因は正當な職業指導を受けたものには容易に防止し得られるのである。

六、父兄の認識是正

我々が児童の職業指導上、最大の痛となすものは、父兄の封建的或は虚榮的な職業觀である。しかし我々はかゝる父兄に對してその考へは誤りであると言下に一蹴するものではない。我々は常に父兄の立場に立つて、考へてみてやらねばならぬ。職業指導は事務ではない。算術ならば一題二題誤つてゐたとて大きな問題ではないが、職業指導殊に選職就職の間

題に至つてはその影響するところが甚大である。卒業近くになつて児童の選職が父兄の考へ次第であつて、適職を見出させようとした教師の努力が水泡であり、大きな存負ひ投を喰つた感を往々にして懐かされることもある。これは父兄との聯絡を欠いた證據であつて、我々は年一回のお坐なりの父兄會で以て聯絡の事了れりと考へてはならない。我々は児童に正しい職業觀を與へ職業的人格の錬成に力めると共に、一方父兄に對して啓蒙の任を負つてゐるのである。父兄は家庭の子供を知り、教師は學校の子供を知る、二者相靠つて初めて圓滿なる結果を招致するのであるから、折を作つて父兄と談合する數を増さねばならない。父兄啓蒙の最大利器は映畫である。それで工場に於ける生活狀態或は教育狀況といふやうなフィルムを作製して、各會社は學校への巡回映畫に提供されんことを希望する。

七、其の他の問題

一 個性調査 教師は常に児童の個性を観察し調査することは勿論必要である。而して我々のかうした調査研究は、それによつて何かの眞理を發見せんとするものではなくして、常に我々の仕事の助けとなること、児童の反省の助けとなることを目的としたものであらねばならぬ。我々の學校は研究學校ではない。児童は帳簿を作製するための材料でもないから此の種の調査は児童や父兄に知らせて活用の途を講ぜねばならぬ。

個性調査を科學的に繼續して且つ総合的になさんとすることは、實際上の問題になると容易ではない。細部に亘つて學理的な個性調査の案を立てることは至難ではないが、さうした案は立てたが、それきりで實際は行つてゐないといふ學校も随分あることを私は知つてゐる。言ふべくして行ひ得ないならば、行ひ得らるゝ最大の範圍に於ける立案で満足すべきである。

各種のテストを行ふことも必要ではあるが、微妙な人間を對象としてほんの一瞬的なテストを以てその全體を將來までも斷定しようとすることは慎まねばならぬ。勿論テストの回數を重ねてその發展を注意深く觀察するといふことは適切な

方策である。しかし何れにせよかかるテストは児童の選職を助け、選職に對する教師の周到な助言の助けとなる資料に過ぎない。それによつて選職への決斷は下し得られないのである。工場での是等のテストは部署に配置すべき判定的の手段であるが、學校でのテストは部署を求めんとする児童の態度への一手段である。適性適職といふことは職業指導本來の使命ではあるが、文字通りは理想であつて、殊に今日の時代に於てはさうした理想は望み得られない。自分の職業に對して自ら運命を開拓して行くその精神が矢張り基調をなすことは明かである。

二 大陸開拓義勇軍 この問題については私は實際に一つの訓練所(ハルビン)を見學したのであるが施設、制度といふやうな方面に於ては所感を有するも、それを記述することは出来ない。當局は大いに映畫化して、その一切をよく児童や父兄に理解させることに努力すべきであると思ふ。

三 女子の問題 男子の不足する場所へ可能なる範圍に於て女子を以て之に代へさせることは、政府の方針でもある。勿論女子には女子の職業、女性に出來得る職業がある。しかし私は第一の重大な問題は都市及び農山村の富裕階級の女子が働くといふことである。良妻賢母といふことは我が國千古の箴言である。良妻賢母とは服装を粉飾する修養でもなく、裁縫、生花、琴などに特別な修行を積む謂でもなからうと思ふ。眞の良妻賢母は先づ以て働くといふところにある。働くことによつて男子の職業を心から理解し互に同情し合つてそこに一家の和樂をなすのである。高等小學校の女子卒業生は將來結婚しても大體自ら働き得る機會を與へられてゐるか、働かねばならぬ階級のものが多いと思ふが、働きに出るが故に良妻賢母たり得ないといふ理由はない。私は女子の職業指導は働くことの眞意義を體得せしめたならばその大半の任務は達し得られたものと思ふ。實際働かうといふ女子が卒業生のうちから毎年多くなる。しかしその大半は電話事務員、銀行給仕、鐵道、看護婦といふやうな方面であつて、工場の如きは稀有といつてよろしい。私は眞に働くこと―必ずしも一定の職業でなくても―の徹底こそ今時局に對應する女子の職業指導―或は教育全野に亘る―の大任務ではないかと思ふ。

四 職業紹介所に對する希望 學校の職業指導は「如何にすれば児童が最も幸福なる職業人たり得るか」といふ親心の

延長である。今日の如く就職のことは紹介所を経由すべき原則に於ては、私は紹介所は先生心の延長であつてほしいといふ切實なる希望を有つ。兒童の就職は失業者の就職斡旋とは意味が違ふ。純真無垢な兒童の社會への最初の一步である。この一步を誤たされた青年が増加したならば社會の状態はどうなるか。茲に私は雇傭主側へは親心、先生心の延長を強ふるわけであるが、第一の關門たる紹介所へ對しては、衷心から以上の念願を懐くのである。紹介所と學校との聯絡については度々通牒に接するところであり、それは當然過ぎる程當然なことであつて、時局下に於ては更にその強化を圖らなければならぬ。

紹介所の多忙であることは我々は之を知る。しかも通牒の趣旨に基づいて我々小學校と聯絡を緊密にしようとせられる努力に對して私は敬服する。しかるに如上の希望を述べるといふことは私の認識不足かも知れん。しかし先生心を心としていたゞく時に於て、兩者聯絡の緊密な楔が出来上つたのではないかと思ふが故に敢てこゝに記したわけである。

八、國民學校と職業指導

最後に私は、國民學校案と職業指導の考へ方について一瞥したい。

前に私は日本の教育は日本独自の日本教育であつて、國民の生命意志は國家の生命意志と一體となるべきことを述べた。私は今國民學校の本旨を考へてみたい。

一 國民學校ノ教育ハ左ノ趣旨ニ基ヅキ國民ノ基礎的鍊成ヲナスモノトスルコト
一 教育ヲ全般ニ互リテ皇國ノ道ニ歸一セシメ、其ノ修練ヲ重ンジ、各教科ノ分離ヲ避ケテ知識ノ統合ヲ圖リ其ノ具體化ニカムルコト

二 訓練ヲ重ズルト共ニ教授ノ振作、體位ノ向上、情操ノ醇化ニ力ヲ用ヒ、大國民ヲ造ルニカムルコト
抑々教育の理想、目標といふものは國家とともに生々發展して行くべきものである。教育が國家の現實とかけ離れ、國家

の緊急な要望に應じ得られないやうな理想、目標であつたならば、國家はその教育を抹殺しなければならない。教育は國家と共に生きその運命を共にすべきもので、現在の國家に對して、最も忠實なるべきもの、即ち國家の今日の生命意志に對して、個人の生命意志を一体となし得べき國民を鍊成しなければならぬ。國民學校の本旨は「皇民の鍊成」にある。而して教育の全般は皇國の道に歸一せしめるのである。教育の全般を皇國の道に歸一せしめて、而して理想は皇民の鍊成にあるのである。皇民とは血と歴史の運命に規定されたところの日本人であつて、その鍊成は人本主義的な陶冶でもなく、個人的抽象的な人格陶冶でもない。皇民は國家の生命意志に個人の生命意志を一体となし得べき人格であらねばならぬ。

私は前に教育分野に亘つて職業指導の教育性を擴充すべきことを説いた。國民學校案の

産業並ニ國防ノ根基ヲ培養シ以テ内ニ國力ヲ充實シ

とあるは、所謂小學校令の「其ノ生活ニ必須ナル普通ノ知識技能」と云ふ個人的知育の目標を國家生活遂行の大目標たる産業、科學、國防に置換へられたのである。個人といふも、國家といふも實質的内容としての産業の發展擴充が得られなかつたならば、その存在繁榮は困難であり國防生活の充實がなかつたならば産業生活の發展は望み得られないのである。

理數科ノ理科ハ第三學年以下ニ在リテハ自然界ノ事物現象ノ觀察トスルコト

として産業科學教育の振興の意味に於て第三學年以下に理科が加へられ、高等國民學校に於ては實業科を重視し「農業、工業、商業、水産ノ一科目又ハ數科目」と示されてゐる。

次に大國民とは何をいふか、といふ問題である。個別的には貧富、賢愚、有能無能、強弱の差は必然的に存する。それを大國民たらしめんとする意は、等しく要求せられ、等しく鍊成さるべき何物が存して、たとへ必然的な差があつても、大國家たる日本の國民として鍊成されなければならぬもの、例へば國體觀念とか基礎的教養とか生活態度とかはそれである。しかし之も一言すれば國家の生命意志に合致し得る人格を有する國民に外ならぬと思ふ。

かくの如く觀じ來るときに、國民學校は從來の教育の如く、人格主義理想主義に走つて實利實際を疎んじたる弊習を矯め、實際に役立つ人間教育を目指したものであることに想到するのである。

さて今後の職業指導は國民學校案に即應して、皇民鍊成といふ大目標理想のもとに、教育全野に亘つてその教育性を強化し擴充することによつて、よき産業人即ちよき職業人の教育に留意すべきものであることを了知せられるのである。

九、結 言

以上に於て私は所感の大体を述べたつもりである。もとより戦時下に於ける職業指導なるが故に、職業指導の全般的施設については言及しなかつた。戦時下に於てはかくありたいと特に希望を有つ諸點について全く自由な立場に於て私見を記述したに止まる。

要するに教育の全野に亘つて職業指導の教育性を擴充強化し、心身の上に於て第一に職業的人格の鍊成を圖り、さうして選職の基本的陶冶を確立しなければならぬ。それが戦時下に於ける職業指導上の最も重要な力點であるとし、是等についての方法を記述したのである。

教育改善に對する二大思潮については前述したところであるが、それ等は、その國家その社會の狀態に應じて發生したものである。教育は國家の趨勢に適應しなければならぬことは申すまでもない。故に教育―狹義の職業指導―が國家の今日の狀態に適應し善處して行かなければ結局蟬の脱殻を握つてゐるに過ぎないのである。

日本教育學は日本の趨勢に應じて必然に發生した現象である。日本の職業指導は亦國家の情勢に應じて進展し變移し行くべきは當然である。私は今日の職業指導は日本教育の全野に浸透し、そしてそれが日本的なるものに見直される道程にあるものと信するのである。

―以上―

戦時下に於ける職業指導の方法

大垣市大垣高等小學校

稻 葉 實

戦時下に於ける職業指導の方法

戦時下に於ける職業指導の方法といふものゝ根本的な問題を中心とするものもあらうし、又即應的な問題を中心とするものもあるであらう。

而し乍ら何れにしても現在我が國の現情では兩方とも對策が必要である。なんとすれば職業指導を行つてゐる小學校(否小學校といふよりは總べての學校)は寔に一部分にしか過ぎないのであるからその大部分は即應的な方法でよからう。が而し現在職業指導を實施してゐる處では即應的な方法では一時の間に合せであり、職業指導教育をやつてゐると大きな顔は出来ない。我が國の職業指導教育である以上今更戦時だからといつてあわてる必要はないのに根本的な建てなほしを施さなければしつとそはない感がするからである。

而し乍ら何れにしても現在我が國戦時下に於ける職業指導の方法には以上に述べたる根本的な對策より生れる方法と即應的な對策より生れる方法より外に良法はない。然らば根本的な方法とは如何にすればよいか。即應的な方法とは何か。即ち前者の方法は以下に述べるが如き日本の職業指導を建設してこれによるの外ない。即應的な後者の方法又同じく以下に述べんとする諸問題をまづ普及徹底せしむることが先決要件である。而して如何に普及徹底せしめんとするもその根本たる指導精神が一時の功利的道義觀に基いたものであつては再び矛盾に逢着するものであるからして以下に述べる處

の日本的職業指導精神に立脚しての取扱でなくては効果は半減するであらう。

茲に第一の根本的方法並に即應的方法の要項をまづ示して以下一々項目を擧げることなく書き下すことにする。

一八

(一) 根本的の良法

- 一、我が國に於ける教育の本質
- 二、我が國に於ける職業指導の現情
- 三、日本の職業指導建設の必要性
- 四、日本の職業指導の建設
 - (イ) 日本の職業指導の本質探究確立
 - (ロ) 日本の職業指導の獨自性探究樹立
 - (ハ) 日本の職業指導の内容吟味
 - (ニ) 日本の職業指導の指導精神

(二) 即應的の良法

- 一、職業觀の是正を圖ること
- 二、國情認識徹底を圖ること
 - (イ) 國策の認識徹底
 - (ロ) 時局産業の認識徹底
 - (ハ) 平和産業の認識徹底

三、職業精神の育成昂揚を圖ること

- (イ) 職業報國の精神育成
 - (ロ) 職分恪循の精神育成
 - (ハ) 勤勞愛好の精神育成
- ## 四、就勞氣風の振作昂揚を圖ること
- (イ) 滿洲、支那の認識徹底
 - (ロ) 支那語科を設置
- ## 五、八紘一字の大精神を職業的にも育成昂揚を圖ること
- (イ) 選職觀念の是正を圖り、以て志望職業の樹立或は志望職業の善導を圖ること
 - (ロ) 適材適所即選職の觀念是正
 - (ハ) 國策の確立と職業界の不安一掃
 - (ニ) 其他
- ## 六、就職指導の強化徹底を圖ること
- (イ) 就職指導係の設置
 - (ロ) 獨善的な紹介斡旋の除去
- ## 七、輔導の強化徹底を圖ること
- (イ) 日本的職業指導の普及を圖ること

以下如上の項目を追ふて述べることにする。

教育者が行ふ職業指導は教育として行はれなければならない。教育の根本は戦時下であらうと非戦時下であらうと變る

一九

べきものではない。何處までも教育の根本は普偏妥當なるべきものであらねばならない。普偏妥當なる我が國教育の根本とは只「人をつくる」のでなくて「善い日本人」をつくるにある。茲に我が國教育の獨自性があり價値がある。従つて職業指導に於いても只の職業指導でなくどこまでも日本的な職業指導教育でなければならぬ。日本的に普偏妥當性のあるものでなければその價値は半減するものである。

然し乍ら我が國職業指導の現状は未だに輸入後の日子も浅いので自然輸入そのものであつて外國の影響を受けて個人主義的な自由主義的なものであり、日本的な職業指導までには止揚されてゐない。

従つて日本的には普偏妥當性のない始末である。又かゝる日本的な職業指導が行はれてゐないといふよりは直輸入そのものである職業指導ですら行つてゐる學校は甚だ一部分にしか過ぎないと言つた方が至言であるかも知れない。否職業指導と何も看板は掲げてはゐないが實施してゐるといふ意見も成立はするがそれは全体でなくて職業指導教育の一部分にしか過ぎないものである。結局全体的な職業指導を實施してゐるのは僅か一部分であつて普及はしてゐない。然し乍ら我が國職業指導の現状が寔に微々たるものであるからといつてかゝる職業指導（職業指導全体を指して）は無用であり、反つて害をなすものであると解するは早計である。なんとすればかゝる日本化せざる職業指導では戦時下に即應出來ない處があり、矛盾に逢着する所が多分にあるにかゝはらず現下の情勢は何故に職業指導を重視し又學校教育に要求してゐるのか。或は又かゝる微々たるものでは即應出來ないではないか。それにもかゝらず要望する所以のものは何故であるか。そも職業指導の歴史が現在に於ける職業的陶冶でもなく、選職指導でもなく、實に如何にして社會の不安を解決するかに端を發したものであることを回顧すれば自と重視せられ要求される所以のものである。然るが故に次に述べんとするが如き諸問題を職業指導によつて解決せんとするのも當然なことである。

一、戦時下に於ける急激なる人的資源の需要増加に對する方策

一、明治維新後に於ける「職業の自由」並に一般に普及してゐる自由思想に對する方策

一、昔の様な美しい主従關係が薄らぎ權利義務化しつゝある奉公の精神が失はれつゝある。學問をすればする程勤勞をいとふが如き現象を呈しつゝあるこれ等に對する方策

要するに現代我が國の職業指導の情勢はかくの如きものであるにかゝはらずその要望せられてゐる任務は實に重大ならんとしてゐるのである。然し乍らかゝる現情では何れにしても第一項にかゝり急激なる人的資源の需要増加に應ずるだけでも相當の矛盾と摩擦が生ずるのは當然である。當然であるからといつて棄て置くわけには行かないのである。國策産業の頓坐を來すことは結局總力の一部の崩潰である。換言すれば事變完遂に一大暗影を投ずるものである。茲に勞務動員計畫、人的資源涵養に對して、これに即應し得る職業指導の必要が叫ばれ、その強化徹底が唱へられるのである。只從前の輸入そのまゝの職業指導を普及せしめるだけならば徹底にならうが強化には少しも役立たないのである。而して實際の仕事はかゝる職業指導界の現情に頓着しつゝも頓着しきれずにとん／＼進展してゐる。然るにもかゝはらず獨りこれに對する職業指導は未だ根本が再検討され終つて新しきものが建設されてゐないために非教育的な取扱ひに甘んずるより致し方ない現情である。かゝる現情では教育上からしても甚だよろしくない。この機會に際してこの重大なる時代の要求を解決する對策を打建てることこそ現代我が國職業指導者に與へられた無上の光榮である。

かくの如きことは我が國國民教育の本質が「善い日本人」をつくるにあるにかゝはらずその方法宜敷しきを得ざるためかく言ふよりは日本化せざるために日本化が叫ばれ、既に國民學校の名稱のもとに、具体化されつゝあることと同様な問題である。

かく觀じ來るならば戦時下に於ける職業指導の方法といふが如き本論題は我が國職業指導をして日本的な職業指導教育に生まれかはらしめんとする機會を與へたものであるといつて差支ない。而し乍ら本論題はあくまで如上の情勢下の所産に外ならないものである。なんとすれば本論題がかゝる情勢下に來たものである以上本論題を解決するものは日本的職業指導を建設するより外に道がないからであることは首めの結論に述べた通りであるからである。これが本論題解決の鍵で

あり方法である。この日本の職業指導の建設は平時は勿論、同時に戦時下に於ける職業指導の根底をなすものでなければならぬ。なんとならば輸入そのまゝの職業指導では戦時下に於ては、特にしつくりと来ないことが立證されたからである。換言すれば日本化されてゐなかつたからであることが各面に於いて露見した所以が如實に物語つてゐる。かくてこそ始めて戦時下に於ける特殊の現象たる強力なる威力が働くと雖も、直ちに即應し、或は我が國体に違背するが如きことあつたり、國策に副はざるが如きことはあり得ないのである。故にこの日本の職業指導の建設こそは平時は勿論戦時下に於ける職業指導の根底をなすものであり又それに即應する良法を生み出すものである。が、るが故に日本の職業指導建設を叫ぶものである。

日本の職業指導の建設は我が國現在の職業指導を探究することによつて始めてなるものである。従つて私は現在我が國に於ける職業指導を輕視する者でもない。又破却してかへりみざる者でもない。否却へつて重視する者である。これを止揚して日本の職業指導を建設せんとしてゐる者である。建設するには如何なる點に立脚點を求めて止揚するか。この立脚點の如何によつて、これに基いて建設される日本の職業指導の生命も或は生命づけられ又は生命を失ふ所以であるからして寔に重大である。そこで私はこれを次に述べんとする所に求めたのである。そして日本的にその根底を普備妥當化したのである。

我が日本國建國の根本は神勅にあり、理想は神武天皇即位建國の大詔に散見する。而して教育の根本は教育勅語にあり淵源する所實に宏遠である。であるから我が日本民族の仕事は平沼前總理大臣の言葉借りて言ふまでもなく天業翼賛であり、萬民輔翼を外にしては何物もあり得ないのである。かゝるが故にこれを排除したならば例へ「人たり得るも」何者たりとも「よい日本人」たり得ないのである。國民教育が「よい日本人」をつくるにあるとしてゐるのも寔に宜なるかなである。國民教育が「よい日本人」をつくるにあれば我が國職業指導教育である以上繰り返して言ふ様ではあるが我が國職業指導も當然職業指導ではなくて職業指導教育でなければならぬ。従つて職業指導教育たる以上その本質も茲にあ

らねばならない。茲に本質を求めてこそ眞の我が國に於ける職業指導教育と大手を振れるわけである。而し乍ら此處で誤解してはならないことがある。然らば職業指導は無用であると、従来の國民教育で十分であつて何もする必要はないではないか。かゝる見解は大いに私は間違つてゐると思ふ。なんとなれば國民教育にしても「算術教育」あり「讀方教育」あり「綴方教育」あり、而してその取扱ふ本質は各々異ると雖もこれ總べて歸一する所は「よい日本人」育成にあることを思ふならばである。従つてやはり只歸一點にはあるがその辿り行く道が異なるだけのことである。又現在に於ける我が國民教育は國語教育にしても、算術教育にしても、体育にしても、如何なる職業に就いたならば最も有効に天業を翼賛し奉るかとは觸れるではあらうが、その獨自的な獨自性としては指導してゐない。茲に我が國職業指導の獨自性があり必要性があるのである。而して天業翼賛は一つの職業を分擔して、これを通して始めて出来るのであるから茲に如何なる職業を分擔したならばよいのかといふことに對する指導が當然必要なことである。如何に大魚たりとも良水を得ざれば生を保持することは出来ないものであるから、従つて我が國の職業指導は具体的な天業翼賛への指導であり、實際的な萬民輔翼法選擇への指導であらねばならない。茲に又我が國職業指導の獨自性があり本質がある。輔翼は全力を盡さなければならぬ。従つて最も有効に輔翼し奉る必要がある。茲に何等かの教育的作用が當然必要である。かゝる作用を私は我が國に於ける職業指導と呼びたいのである。その作用とは如何なる方法によりて實現すべきであるか。第一に職業的陶冶が必要であり、第二には選職指導、第三、第四には轉職指導輔導も必要でありこれによるの外はないのである。そしてこの作用を何處で行はうと何處にと入れようと差支ないが最も効果のある方法は獨自性を生かす職業指導科を設けることであり、次にかゝる場合を機會つくることである。

かく觀じ來るならば外國に於けるが如き個人の發展に専念するが如き自由主義的な個人主義的な立脚點とはその本質を異にするこゝが顯現されるものである。従つて我が國の職業指導がかゝるものである以上に現代學校に於ける職業指導の領域が職業精神の涵養と選職に至るま

での指導であると言はれてゐるにしても、是等も必ずや如上の門をくゞらなければ價値は我が國に於てはないのである。又かゝる意味よりかゝる門をくゞつた適材適所でなければその思想に動搖を來たすことになる。

かゝるが故に我が國職業指導は否日本の職業指導は國民教育上かうしても重大なる獨自性を持つものであるといへる。又かゝる本質の上に止揚された職業指導ならば當然生れ故郷が一である以上我が國國民教育の本質に歸一するものであるといふことが出来る。

以上かゝる立脚点より我が國現在の職業指導を止揚したならば始めて日本の職業指導が打ち建てられるものであり、かくの好き本質に基く一貫せる指導精神をもつてしたならば日本の職業指導が肉づられ生命づけられるものである。

日本の職業指導教育の本質が探究され確立し、その獨自性が究明され指導精神が一貫し加ふるにその作爲すべき内容も示されたのであるから茲にその大系を打建てなければならぬ。而し乍ら大系の形式とか方法とか言ふべきものは在來に於ける我が國職業指導の方法、形式ミ大体に於いて軌を一にして差支ない。なんとすれば形式とか方法とかいふべきものは少しでも科學的でなければならぬからである。形式は外國に於いても我が國に於いても大同小異であるから今更進歩したこゝまで來た方法なり形式をなげすてる決意はない。形は外見は人間でもその体内を流れてゐる血液は異なる。精神は異なる。茲に着眼點がある。即ち在來の職業指導の精神はその全部が自由思想、個人主義に立脚したものであるに對し私が打ち建て戦時下に於ける職業指導の方法とせよとする日本の職業指導は皇道精神に立脚したものであるところに異りを見出すのであるからである。例ふるならば茲に一つの布がある。これを(方法、形式)赤液(甲指導精神)に浸せば赤く染るし紫液(乙指導精神)に浸せば紫に染まるが如きである。かく解するからして私は軌を一にして大体差支ないとしたものである。私はかゝる見地に立脚して出來上りたる處の方針と綱領のみをかゝげてみることにする。

方針

職業ニ關スル正シキ觀念ヲ與ヘ職業精神ヲ涵養シテ職業ヲ通シテ國家社會ニ貢獻奉仕スルニ足ル健全ナル職業的人格ヲ陶冶シ進シテ選職就職ヲ適切ナラシメ就職後ノ向上發展ヲ指導センコトヲ期ス

綱領

- 一 職業ニ關スル正シキ觀念ヲ與ヘ其ノ社會的重要性ヲ確認セシメテ職業ヲ通シテ國家社會ニ貢獻奉仕スルノ態度ヲ涵養センコトヲ期ス
- 一 實習實驗等ノ作業ヲ多クシ職業的生活ヲ體驗セシメテ誠實勤勉ノ良習ヲ馴致シ勤勞愛好ノ精神ヲ涵養センコトヲ期ス
- 一 現時ノ産業並ニ社會情勢ニ應スル各種職業ノ知識ヲ啓培シ其ノ特質ヲ研究セシメテ職業選擇ヲ適切ナラシメンコトヲ期ス
- 一 兒童ノ性行、知能、趣味、特長、身体、環境等ノ狀況ヲ精査シ各自ノ自覺ト信念トヲ與ヘ家庭ト連絡ヲ密ニシテ選職就職ノ指導ヲ適切ナラシメンコトヲ期ス
- 一 就職後ノ就業情況ヲ査察シ健全ナル職業人トシテノ向上發展ヲ助成輔導セレコトヲ期ス

かくてこそ一般に直面してゐる處の戦時下なるが故に我が國職業指導に矛盾あるが如き部面を生ずる筈はないのであるといふよりもかゝる職業指導こそ事局下に直面せる所の各種の職業的問題を解決するものであると言つた方が適切であるかも知れないのである。要するに如上に於けるが如き一貫せる指導精神をもつてする日本の職業指導こそ戦時下に於ける職業指導の第一の良法であり、我が國職業指導の將來あるべき基礎として進展する方法である。

次に第二の方法として登場するものは即應的な方法である。即應的な方法とは戦時下方るが故に顯現した所の具體的な現象に對する諸問題を如何に處理し即應させて行くかにある。かくの如き問題は應急な問題にしか過ぎないが常に千變萬化のあるものであるからして臨機應變の處置が大切である。従つて或は本論題の要求點であり、最も中心點をなすものであるかも知れないが、結局土台のない處には家が建たないと同様である。たとへ打建てるともすぐこわれてしまふ。あたかも池中の浮草の如くである。繰り返してではあるが教育はかくの如きであつてならない。どうしても根據があつて即應する處置を考へなければ駄目である。従つて私はかゝる觀點からして前述せる處の根本的方法に立脚して即應的方法

を根本的方法同様要項を一々例舉しないで述べることにする。述べんとする筋は最初に述べて置いた。

第一に職業觀そのものに對する誤りたる觀念の是正である。吾々人生の過半は職業に従事することに盡され、淺餘の大部分はその準備に盡されてしまふ。かう考へてみると職業は吾々にとつて寔に重大な杖であり、吾々を生命づけてくれるものである。然らば職業とは如何なるものかといふと職業の定義には寔に各種雑多であつて一々論斷するにいとまがない程である。而し乍ら要するに職業とは「人ガソノ性能ニ應ジテ共同生活ノ或ハ部門ヲ分擔シ之ニ參與貢獻スルト共ニ通常之ニ因テ受クル報酬ヲ以テ其ノ生活ヲ維持充實スル繼續的勤勞ナリ」と寔に克明に職業指導調査協議會は定義答申してゐる。けれどもこれだけでは職業に貴賤がない。といふよりはその何處にも顯現してゐないのであつて、かゝる職業觀の外何も考へない又影響するものがなければ何も是正する必要はないのである。然るに過去に於ける職業觀の歴史を約論する時、洋の東西を問はず職業は支配階級のものではなかつた。卑しい者のする仕事であつたのである。かゝる觀念が未だに是正されてゐない。特に筋肉労働に對して然りである。如何にこの觀念が職業選擇に際して現代を毒してゐることか。かゝる職業觀をして茲に神聖化すべきである。尊さを持たしむべきである。我が神代の神々の業は天照大神を中心として神聖そのものに取扱はれた。その外に何事も考へない。茲に尊さがあり、神聖さが存在してゐるのである。そして又日本に於ける職業の意義があり價值があるのである。これを是正するにはさうしてもかくの如き誤りたる職業觀を頭に置いて正しき職業觀を總ゆる機會を通じて涵養することが一番適切である。即ちその施設は職業指導科の設置されてゐる處では言ふまでもないが設置されてゐなくとも各教科を通じて行ふことが出来る。

第二には我が國現在の情況並に將來について、國策に對する理解、時局産業の重大性、平和産業の情勢並に將來性等について總ゆる機會を見出して懇切に指導することである。

第三には職業精神の育成昂揚を圖ることである。その第一は職業報國の信念の育成である。報國の大切なことは既に修身等で相當論ぜられてはゐるが實際は餘り意識的には働いてゐない。なんとすれば報國とは軍人にも附隨する又義務で

あると考へられ勝ちであるからである。勿論軍人は直接的であり一般の職業の大部分は間接的であることが然らしめたことではあるが、或は又現在の資本主義に立脚した社會機構からかも知れないが、何れにしても軍人に比べてその報國の信念が忘れられ勝ちになることは否定出来ない事實であり、又その事實が相當ある。今後の一般職業人は軍人に同じく報國心に燃えなければならぬ。只國を思ふといふもの利益さへあればそれでよいといふ觀念だけでは決して總力戦の一員としてその責を果してゐない證據である。報國の効果は平時に於いては仲々目にみえて顯現するものではない。國民皆兵と言はれてゐるが今後の日本國民は近代戦が總力戦である以上總べてが兵である。なんとすれば只總力戦の分擔が異なるに過ぎないからである。極端ではあるが第一線の將兵には個人的自由は與へられない。總べてが目標に向つて突撃することのみ與へられてゐるのである。とすれば産業戦士も然るべきであらねばならない。産業戦士の突撃はトーチカをとるものでもない。只己が職業を通して、否職業を分擔することによつてのみなるものである。

その第二は職分格循精神の育成昂揚である。人々各々分あり、あたかも眼、鼻、口、耳、手、足あるが如し。何れも精巧なるべきであるが、總べて身体に通ろくしたものであつて大き過ぎても小さすぎてもその効を果さない。而して則をこえない所に價値がある。又個別的なものであつて個別的なものでない、全体的の分を持つてゐる。只手や足の分には變はりはないが手や足を置きかへることは出来ないが我々には進展がある。従つて職分格循は保守退嬰的を意味するものではない。一例を舉ぐるならば豊臣秀吉の草履取り時代の精神乃ちその時にはその時の與へられた仕事に對して全身全靈を打ち込んで行く精神或は又今事變の生み出した第一線の將兵中如何に多くの持場くを死守せる美談が傳へられてゐる。この精神であるべきであり、これがあつてこそ又「分」も漸次進展するのである。今日徒に「分」を守らずして只進歩を望み権利のみに走ることは寔に遺憾千萬である。かゝる職分格循の精神を育成昂揚することを大切なことであり、又轉職の防止にも幾分はならうものである。

その第三は勤勞精神の育成昂揚である。職業精神本來の性質からみるならば、その大部分は大體に於いて職業指導を實施

してゐなくとも實際は國民教育に於いて涵養されてゐる所以のものであらねばならない。只人体をばら／＼にして又これをひつけ合はしたから又もこの生きた人間が出来ないと同様に或る場所から切りはなした勤勞精神の概念であるかも知れない。なんとすれば學問をすればする程勤勞をいとふ現象が如實に物語つてゐる。特に筋肉勞働に於いて然りである。それは現代教育が餘りに知育偏重に陥つてゐるからである。何のために知育を授けるのか知り盡してゐるのであるが、勿論罪は前述せる職業觀にもあるのであるが、而し私は知育を輕視するものでもない。正しきものを生み出すには正しき知識によらねばならぬことは十分知り盡してゐる。思ふに現在の教育は教へるのに急であり、知識を記憶するのに（教育の求めてゐる本質はかく末消的なものではない）暇がないのが第一の原因である。記憶の悪い人間は常によく働くとも劣等生として評價されその勤勞を認められないことが第二の原因である。第三の最も大きな原因は現代の機構に於ては學問すればする程頭が知識的になり、支配的になり、肉体的筋勞が忘れられ、茲に勉學の期間に正比例して職業から遠ざかつてゐるためである。第四の原因は勞少くして最大の効果を擧げんとする觀念に對する誤解から來るものである。

何れにしても職業報國をせんとするにも職分を恪循するにも原動力は勤勞に待つ外ないのであるから寔に大切であり、従つて如上の原因を探究して、各種の機會を通じて勤勞の尊さ、必要さを體驗せしめることで大切であり、かくすることによつて始めて育成昂揚される。

第四には現在の兒童に對しては大した問題ではないが就勞氣風の振作を圖ることが大切である。なんとすれば既成社會の現情をみると此の非常時とはいへ如何に無爲徒食の士が見受けられることが、現在の兒童をして將來かゝる人間たらしめざる様指導すべきである。これが是正には正しき職業觀を涵養し置くことであり、日本の職業指導の本質に徹せしめ置くことが大切である。

第五には大陸の認識徹底を圖ることである。滿蒙は我が國の生命線である。大いに出かけるべきであると言はれてゐるが、果して眞に理解してゐる者は幾人ありやである。理解してゐるといふ人ですら急行で旅行して來た人や、知識として

如何にも物識り顔に話す人の如何に多きことであるか。加ふるにかゝる天地を知らしめんとする施設は皆無である。只小學校の地理がそのほんの一部を分擔するに留る。もつと大陸の天地を國民に知らしむべきである。親しみを持たすべきである。只生命線がある。それだけでは言はぬ方がよい。私はこの方面に大いに力を注ぐ必要があると思ふ。まづ率先して左記の施設を講ずることである。そのうち支那語科は選擇科目として私の奉職校では既に昭和九年以來實施してゐるまづ大陸を認識せしめよ。理解せしめよ。然る後大陸に誘導せよ。

1 大陸の地理を重視すること

2 支那語科を必須科とするこゝ

第六には職業選擇の重要性を認識せしめると共に誤りたる選職を是正し、志望職業を樹立せしめ、或は志望職業の善導を圖ることが大切である。確かに時局下に於ける選職指導は重大化しつゝある。戦時下に於ける現象として個人主義的な適性適職觀念は通用しない。國家から出發して選職しなければならぬといふ聲が當局者間にみなぎつてゐるが、何故通用しないのか、又選職とは如何なるものであるかと言ふが如きことは得心の行ける方法を講じてゐない。又一般に選職とは選職即適性適職と考へられてゐる。こんな情態であるから矛盾があり摩擦が生ずるのである。私はまづ第一に選職とは如何なるものか究明してみることとする。即ち次の通り三つの據點が擧げられる。

第一種類の選職は個人的な適職である。所謂環境とか、社會を考へない。個性のみに合致する適職であつて、これは平時であらうと戦時下であらうと永遠不變なものであり、常に考へられなければならないものである。第二種類の選職は社會的、環境的、職業的な諸方面の情勢等に支配され或は又即應する適職である。前者が科學的傾向があるに對して後者は一般に非科學的なものであり、最も自然的なものである。又在來の大部分はかくかくであつたに違ひないし、又今でもどうかすると大部これが主である。例へて言ふならば家庭の都合上甲へ就職するとか、方角が悪いから止るとかの如きである。又何等の理由はないが奨められたから行くのも同類である。第三種類の選職は第一種類と第二種類を綜合した適職で

ある。個性を生かすには環境や社會情勢や職業界の情勢を無視しては、魚に水を興へないと同様であり、鹽水に淡水産の魚を入れるが如きことなきにしもあらずである。

以上要するに何れを強調するかに問題がある。この三據點を夫々關係づけてみると第一部類を選職の全部とするか、第二部類を全部とするか、第二部類より第一部類へ進展せしめんとするか、第一部類と第二部類とを綜合して自由な立場から選職するか四つになるのである。自然かく分類すれば現在までの我が國職業指導の選職の歩みも自づと判然して何も夫れのみ主張する必要もなくなるであらう。茲に幾多の行き方のあることがうなづかれるであらう。又職業の變遷は明治維新をみればうなづかれる通り漸次變るものであるから戦時下に於ける選職の行き方も何れの行き方を強調した方がよいか判然する。只私は或部類(三を除く)だけで決定することだけは戦時下であらうとも考へある者にとるべき態度ではないことを附言するものである。

次に選職に重要なことは相手たる職業の如何である。適職は只一つでないのであるが、實際は只一つであると考へるから間違ひが生じ選職指導の無用論が擡頭するのである。一にあらす範圍は廣大であり、従つてこゝに戦時下の選職の意義があり、指導面があるのであつて、又この範圍は常に變動するものである。而し乍ら實際に直向した時適性適職とは言ふものの、少しでも堅實な職業を、將來性のある職業をと誰しも思ふのが人情である。然るが故にまづ第一に解消すべきものである。夫は國策職業の將來に父兄の不安である。軍需工業の將來性である。朝令暮改と國民の不安である。戦争と軍需工場の過去の經驗上の不安等である。これを解消すれば何等心配する必要はない。必ずや蜜のある所に蟻たかるの例にもれず。

換言すれば日本の職業指導の本質に徹せしめることも大切ではあるが、まづ確固たる不動の國策を樹立せよ。父兄をして安心せしめよ。然らば戦時下に於ける日本の職業指導の本質に徹せしめるであらう。否安じて徹せしめることが出来るのである。日本の職業指導の本質は生々發展するものであり、かゝるものだけに榮光があるからである。然らずんば如何

に笛吹けど國民は踊ることはあるまい。

更に進みては第七に就職指導の萬全を期することである。今までは馬耳とう風であつた否關心を持つ暇のなかつた、或は力のない父兄の態度が眞剣になる時はこの時期である。此の時期こそ父兄への職業指導は効果が擧げられるのである。従つて父兄への指導は選職指導も就職指導も一度に行はなければならぬ。そしてこの如何によつて收穫が決定されるのであるから特に職業指導教育を實施してゐる學校に於いてはその任たるや寔に重大といつてよい。第一には就職の大性を徹底せしめること。第二には國營紹介所を十分認識せしめること、親しみを持たせること、信頼を持たしめる施設を講ずること。第三に紹介配置せんとする職業に安全性を保證すること。

第八には輔導の萬全を期すること。如何に國策産業であるとは云へ人間が出来て行かなくては、父兄として一番心配なところである。父兄の自由を成る程度拘束するのであるからして、そこに必ずやそれに報ゆるに何物かがあるのが至當である。かゝる意味からしても紹介所は、かゝる者に對しては將來どこへまでも見守つてやるのが大切である。又父兄の心配は轉職とか失業とかいふ場合を一番恐れてゐるのであるからして、事務的でなく親心を持つて輔導されることが保證されてゐるならば、どんなに個人にとつても國家からしてもよいことであるか知れない。而し乍ら何れにしても根本は

一、日本の職業指導教育の普及を圖ることであつて、圖れなければ我が國職業指導教育でなくて職業指導だけでもよいからその普及を圖ることである。その第一は師範學校に取り入れることが最も大切である。その第二は研究委託發表會を開催することであり、その第三は講習會を開催することである。

一、高等科には必ず職業指導科を特設することであり、又選職相談、就職相談、父兄會等の際は卒業學年は全力を傾倒してこれが周知徹底を圖ることが何よりの機會であり、父兄開發誘導の好チャンスであることを忘れてはならない。此の實際紹介所と連絡を圖ることは勿論大切である。或はこれが戦時下に於ける職業指導の全部なる學校もあらうが、まづこゝから出發する方法もよからう。なんとなればそれは職業指導の歩み來りし歴史を繰り返してゐるからである。

要するに私の述べんとした戦時下に於ける職業指導の方法は、概念的に流れた様であるが大體以上の如きものであつてその根本的な對策として日本的職業指導の建設を叫んで來たものであり、これを土臺として即應的な方法の概念を掲げたものに約論される。御参考ともなれば光榮の至りである。

(以上)

私と職業

岐阜市梅林尋常高等小學校

高二女 堀 江 數 子

いづかたにこゝろさしてか日盛の
やけたる道を蟻のゆくらむ

孜孜として働き營々としていそしむる生物の姿を見る時、言ひ知れぬ尊さが感ぜずには居られぬ。人生の幸福も社會の發展も畢竟するに各人が夫々社會運営の一部を擔當して、其の職分に専念邁進する事によつてのみ得らるゝものである。私も三月學校を卒業して社會の荒波に向ふ事になつた。社會に出ると色々な荒波に遭ふ事は覺悟である。例へ如何なる荒波がやつて來ても自分の心さへしつかりしてゐれば決して恐れる事はない。私は常に思つてゐる事は「職業には貴賤がない」と言ふ格言の如く國家社會の一部面を擔當して働く職業に變りがない。私は第一に自分の個性を充分に探究し一方に於ては深く職業の研究をなし、果して己の適業は何かと言ふ事を判断して誤りなく其の方向を決定す可きであると思ふ。然し第一適職に就くと言ふ事は仲々困難で第二、第三と思はるゝ職に就かねばならぬ事が多いものであるが、甚しく不適職でない限りはその職を一心に勉強して、所謂岩をも通す決心で堪えず己の修養に努め其の職業に精進して行けば遂に成功に到達出来るのである。私は目が近いので好きな職に就く事が出来ないかも知れないが、あの両手と片脚を失つた中山龜太郎氏が血のにじむ様な努力によつて中學及び大學を卒業し立派な職業を得て活動して居られるのを見たならば、眼の近い位決して悲觀することなく大いに發奮して適職に就き國家社會に貢献したいと思ふ。

職業

三四

岐阜縣揖斐郡宮地村立宮地尋常高等小學校
高二 安田 志 仁

卒業も後三箇月にせまつて、いよいよ實世間活社會に出ることになる。社會に出れば何かの職業につかねばなるまい。いつたいどんな職業につくか、家にゐて農業を手傳ふ者、工場に行く者いろ／＼あるだらう。私は農家に生れて、今まで農業生活を体験してきました。尋常科の頃は農業はそんなに大切でなくつまらぬものと思つてゐました。五月は雨のびしよ／＼降る中を田植をする。夏は焼けつくやうに太陽が照りつける。苗も大分のびてゐる。其の中をうつむいて田の草をよく取る。あんないやな事があらうか。町の人はお店の番をしてゐるだけだと。けれどもそれは誤解でした。高學年になつた今日、農業を眞に理解するこゝが出来ました。田植時は農繁休みに苗取をする。これが二日、三日連続と夕方は腰がいたい足が棒のやうになる。足をひきづりながら歸へるのである。私達はかうした苦しみをおしきつて働くのだ。然し苦ければ樂あるがごとくこの苦しみの半面に又樂しいことがある。稲がよく稔つて澤山收穫される樂しさ、一日働いて家へ急ぐうれしさ、又親子一所に土に親しんで暮らすことがどんなに樂しいことか。其の間に又健全な身体をもつくり上げて行くのである。國家として農業がいかに大切かは學校で習ひ、或ひはかうして毎日農業生活をしてゐる間にわかつて來ました。國民の食糧とする米を十分に收穫する爲には色々な道具も改良せられて將來農業はまだ／＼進歩するだらう。今日大陸發展の一として義勇軍が滿洲の曠野に於て土を耕して生活して行くのを見ても土に親しむ農業がいかに國の榮えをいやす貴い職業であるかがわかるだらうと思ひます。けれども他の職業が悪いといふのではない。工業も商業も皆それ／＼國家の繁榮に必要なものばかりである。今日文明の進歩した世に於いて農工商共に國家の隆昌をはかる上に重要な職業ばかりである。どの職業に従事してゐる人も一生懸命に努力せねばならぬ。

職業決定の喜びと覺悟

岐阜縣大垣市大垣高等小學校

高二 岸 野 登

「お前、師範學校を卒業して先生に成つたらどうだ。」

學校の父兄懇談會から歸られた父様は、僕に向つて突然斯うおつしやつた。非常時日本に相應しい職業。第二國民を國家に有材な人物に育て上げる教育者。僕は此の方面の職業に非常な憧れを持つてゐたが、家庭が餘り裕福でない爲遠慮をしてゐた。其れを思はずも父様から言出されたのだから僕は非常に嬉しかつた。

「え、本當に僕を師範學校へ行かして呉れる。本當ですか。」

「一生懸命やろうといふなら一つ奮發して、師範學校へ入學させてやろう。どうだしつかり出来るか。」

「え、必度しつかり勉強します。」

「うん、それなら入學させてやろう。しつかり勉強しろよ。」

さあ僕はもう嬉しくてたまらない。「手の舞、足のふむまを知らず。」僕はまつたく其の通りだ。其の日直ぐ父様にお錢をいたゞいて、好い参考書を本屋で求めて來た。其の日は此の御本で一生懸命勉強した。今迄、軍需工場へ入らうか。鐵道員に成らうか。或は呉服屋か何處かの小僧に行かうか。と思ひ迷つてゐたのが一遍に定まつた上、しかも自分の最も憧れを持つてゐた教育者になれるのだから當然の事だ。

其れから後僕は、夢にも、小學校の先生に成つて、無邪氣な教へ子達と一緒に美しい花の咲きかほる野原へ寫生に行つ

405
415

た場面、或は新鮮な空気を吸ひつゝ、軍歌を朗らかに唱つて遠足に行く場面等々をよく見るようになった。
近頃の少年は徒らに私利だけを考へて就職するやうだが、そんな人は非常時日本の國民として、大いに恥づべき人だ。僕は思ふ。だから僕は神聖なる教育者に成る事を志したのだ。一旦斯く定まつた上は必ず入學出来る様に勉強しなければならぬ。教育界千古の偉人と言はれたベスタロツチの様に、愛情と信念とを以つて、終始一貫、心も身体も捧げて教育の爲に盡さなければならぬ。これも教育者に成つてからの大切な心掛の一つである。僕は幸にして先生になつたならば、必ず「教育勅語」の御趣旨を奉体して、我が國の第二國民を立派に教育する覺悟である。

昭和十五年十月三日 印刷
昭和十五年十月五日 發行

發行者	岐阜市司町一番地
發行所	岐阜縣廳
印刷者	岐阜市西野町二丁目 舟橋與三太郎
印刷所	岐阜市西野町二丁目 舟橋印刷所

終

